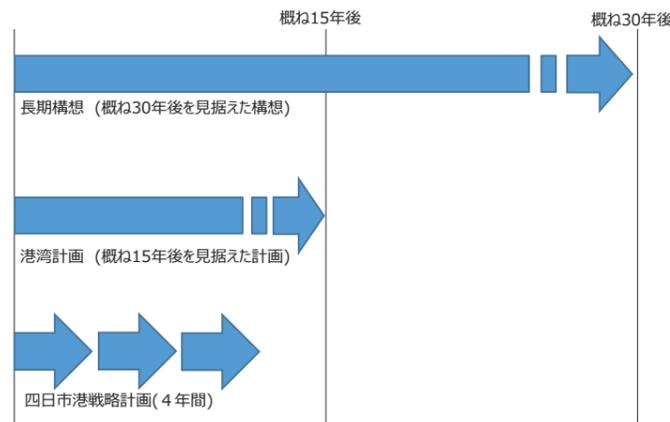


## ■長期構想・港湾計画・四日市港戦略計画の関係

「四日市港長期構想」は、概ね15年後（令和20年代前半）を目標年次とする新しい港湾計画に改訂するにあたり策定した、概ね30年後（令和30年代後半）を見据えた構想です。

また、四日市港管理組合では、「四日市港長期構想」及び「四日市港港湾計画」の目標を達成するため、4年毎の「四日市港戦略計画」を策定し、計画的に取り組を進めています。



## ■長期構想の策定経緯

令和5年度に「四日市港長期構想検討委員会」を設置し、3回の委員会を開催し、四日市港に対する諸要請と今後果たすべき役割などを踏まえ、長期的視点にたった四日市港の将来像やその実現に向けた取組の方向性に関する助言をいただき、検討を進めてまいりました。

また、四日市港長期構想（中間案）を策定した時点で、パブリックコメントを実施し、県内に在住、又は社会的・経済的活動を営んでいる方や四日市港のユーザーの方から広く意見を募集しました。

このたび、検討委員会での議論及びパブリックコメントでのご意見を踏まえ、「四日市港長期構想」としてとりまとめたところです。

### 四日市港長期構想の策定の流れ



# 四日市港長期構想

地域に貢献する、なくてはならない存在としての四日市港づくり

四日市港は港湾を取り巻く情勢の変化に応じ、さまざまな対応を行い、地域に貢献し、なくてはならない存在としての港づくりを進めてきたところであり、今後も港湾を取り巻く情勢が変化したとしても、この役割が変わることはなく、制度の見直しも含め多くの関係者の理解のもと、これまで同様、情勢変化に的確に対応していく必要があります。

そのため、新たに策定する四日市港長期構想においても、これまでの基本理念を引き継ぎ、「地域に貢献する、なくてはならない存在としての四日市港づくり」を基本理念としながら、社会情勢や背後圏産業の変化を的確に捉え、変わり続ける港として、その変化に柔軟に対応した取組を進めていくこととします。



### 連絡先

四日市港管理組合 経営企画部 企画課  
 〒510-0011三重県四日市市霞2丁目1-1  
 TEL(059)327-7156 FAX(059)366-7048  
 四日市港管理組合HP <http://www.yokkaichi-port.or.jp/>

令和6年3月

 四日市港管理組合

## ■将来像の実現に向けた取組

新たに策定した四日市港長期構想では、「地域に貢献する、なくてはならない存在としての四日市港づくり」の基本理念のもと、概ね30年後の四日市港の目指すべき姿として4つの将来像を整理し、将来像実現に向けた政策の柱を整理しました。



将来像の実現に向けた取組	
政策の柱	施策
<b>政策の柱 1</b> 背後圏産業の持続的な成長を支える港づくり (物流・産業への貢献)	① 国際拠点港湾としての機能の充実・強化 ② 四日市港及びその背後圏の脱炭素化の促進 ③ 国内複合一貫輸送網の構築 ④ 背後圏産業の動向を捉えた港湾サービスの提供 ⑤ 臨港交通体系の充実・強化 ⑥ クルーズ船誘致による背後圏観光産業の振興
<b>政策の柱 2</b> 魅力にあふれ、人々が交流する港づくり (交流の創出)	① 親まれる港づくり ② まちづくりと一体となって、賑わいを創出する港づくり
<b>政策の柱 3</b> 住民・産業を守る港づくり (安全・安心の確保)	① 背後地を守る防災機能の充実・強化 ② 港湾施設の機能の維持・強靱化 ③ 港湾活動の安全性の確保 ④ 災害復旧・復興活動への対応
<b>政策の柱 4</b> 自然とヒト・モノが共生する港づくり (環境の保全)	① 自然海浜・干潟、水環境の保全 ② 良好な港湾空間の創出 ③ 地球にやさしい港づくり



W81整備イメージ

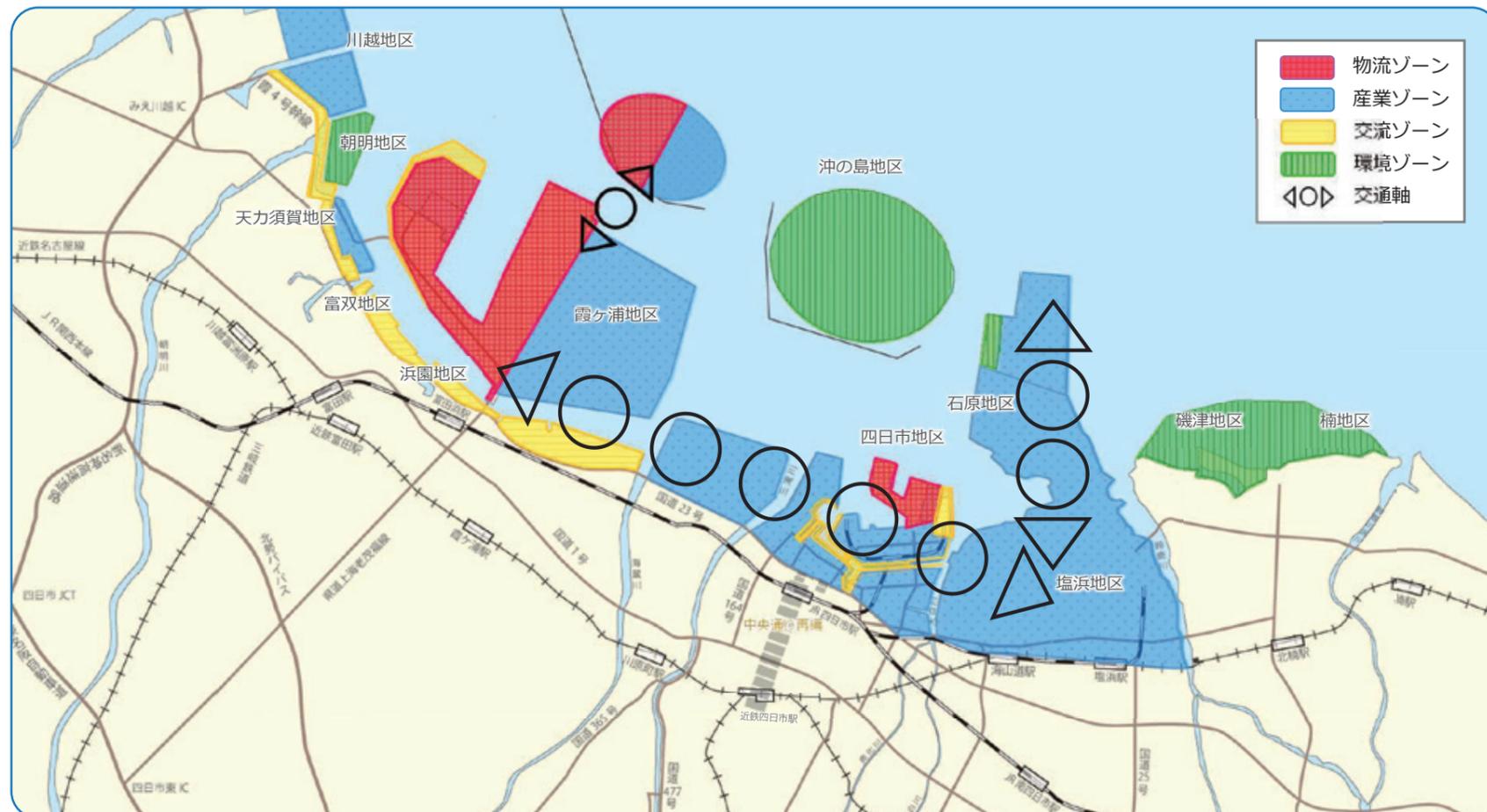


四日市港いきもの観察会

## ■空間利用ゾーニング

四日市港の限られた港湾空間の中で、四日市港の将来像が確実に実現されるためには、そのための多様な港湾機能が適正に配置され、結果として港湾空間全体が効率性、快適性、安全性等に富んだ空間とならなければなりません。そのため、四日市港の港湾空間を、将来の利用の方向性も加味しながら、次のように「物流ゾーン」、「産業ゾーン」、「交流ゾーン」、「環境ゾーン」という4つの機能区分・用途別にゾーニングを行い、それぞれのゾーンごとに必要な取組を重点的かつ効率的に進めることが必要です。

### 全体ゾーニング図



### 物流ゾーンの空間利用の方向性

霞ヶ浦地区は、コンテナや完成自動車の取扱いの中心として役割を果たしており、背後圏からの広域アクセスが向上し、物流拠点としてのポテンシャルが高まっている地区です。そのため、国際拠点港湾としての機能の充実・強化や、背後圏産業の動向を捉えた港湾サービスの提供、臨港交通体系の南北軸の強化に向けた整備の促進に取り組み、国際物流拠点としてのポテンシャルを一層高めていきます。また、コンテナターミナルに隣接する土地は、脱炭素化や背後圏の次世代産業等のニーズに対応した活用に向けた検討をしていきます。

四日市地区は引き続きバルク貨物等の取扱いの中心として役割を果たしていきます。

なお、背後圏産業をはじめとしたさまざまな需要をふまえ、霞ヶ浦地区や四日市地区で新たな内航需要に対応したサービスの提供に向けた取組を進めていきます。

さらに、今後想定される浚渫土砂等の処分用地不足を解消し、安全・安心な物流機能を確保するため、沖合に処分用地の確保に取り組みます。

### 産業ゾーンの空間利用の方向性

カーボンニュートラルポートの形成やカーボンニュートラルコンビナートの推進に向け、霞ヶ浦地区については、沖合に産業空間を確保し、脱炭素化に資する活用に向けて取組を進めます。

また、石原地区についても、脱炭素化に資する活用に向けて取組を進めます。

併せて、課題となっているコンビナート間の連携強化に向けて、臨港交通体系の南北軸の強化に向けた整備を促進し、産業機能の充実・強化に努めます。



脱炭素化の支援に向けた用地確保のイメージ

### 交流ゾーンの空間利用の方向性

川越地区から霞ヶ浦地区にかけては、水際線沿いに富双緑地、霞ヶ浦緑地など、親水空間が点在しています。これらを、相互に連続性を持たせることにより、水際線の空間全体としての魅力を向上させます。

また、四日市地区においては、「四日市みなとまちづくりプラン(基本構想)」や四日市市が進めるまちづくりの動きと連携しながら、みなとの文化や景観を活かした交流空間の形成を図ります。

### 環境ゾーンの空間利用の方向性

朝明地区や磯津地区、楠地区など、豊かな自然が存在しており、これらを次世代に継承するための保全に取り組みます。

また、石原地区における一般・産業廃棄物埋立区域では、新たな環境空間の形成を図ります。